

科目名	幼児の心理学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	・人はどのように学習を行っていくのか、どのように人間関係を築いていくのかを学ぶ。心理学における様々な研究から得られた知見を学ぶことで、保育の実際の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。						
授業形式	講義	○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		気になる子供たちについて知る	
	○	○		○		人と人との関わり方について知る	
	○	○		○		保護者との関わり方について知る	
	○	○		○		現場で生かすにはどのようにすべきか知る	
テキスト・教材 参考図書	「保育に生かす教育心理学」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達と初期環境				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	2	学習行動の基礎、条件付け				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	3	学びの動機づけ				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	4	パーソナリティの発達				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	5	教育・保育における評価				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	6	発達障害のある子どもの教育・保育				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	7	家族ぐるみの教育的支援				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	8	子どもをめぐる教育的支援(不登校、虐待)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)講義終了時に小テストを実施する。(2)定期試験の実施。以上をふまえて下記の観点、割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○	○	○		10%
	発表	○	○	○	○		10%
履修上の注意	レポートの下書きが未提出の時は評価の対象としない。						

科目名	教育原理						
科目名(英)	principle of education						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	こども未来学科1年生						
授業概要	この科目は「保育士」資格を取得するための近大科目で、「保育」とは教育と養護を併せ持つ概念であり、「保育士」を取得するという事は「教育者」であるという視点が必要である。また人間が学校へ行き、勉強するのは社会性と共に思考力を身につけるためであり、保育者を目指すものとして、知的好奇心を旺盛にし、学ぶ姿勢をもつことが重要であることを学ぶ。さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けば良いか考えるきっかけとする。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		保育とは何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、レポートとして文章にすることができる。	
		○		△		保育士となるためには知識や技術だけでなく、人間性を豊かにすることが大切であると理解する。	
		○		△		保育者として大切な知的好奇心を養い、伸ばすことができる。	
	○		△		自分の考えを分かりやすく発表することができる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション				授業レポート提出	
	2	「教育」と「保育」の関係について～レポート1冊目説明				内容理解のレポート作成	
	3	価値観の違い				価値観の違いについてグループディスカッション	
	4	学校教育はなぜ必要なのか				内容理解のレポート提出	
	5	外国の教育と日本の教育の違い				内容理解のレポート提出	
	6	映画「学校」鑑賞				調べ学習→発表の準備	
	7	映画「学校」鑑賞つづき				感想のレポート提出	
	8	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(調べ学習)				調べ学習→発表の準備	
	9	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(調べ学習)				調べ学習→発表の準備	
	10	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(調べ学習)				調べ学習→発表の準備	
	11	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(調べ学習)				調べ学習→発表の準備	
	12	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(発表)				発表	
	13	知的好奇心を伸ばそう！不思議なこと探し(発表)				発表	
	14	あらためて教育とは何か、保育とは何か				発表	
15	まとめ				まとめのレポート提出		
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりにするため、試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回の感想文	◎	◎		◎		20%
	調べ学習	◎	◎		◎		60%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	教育課程総論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼稚園に教諭として3年間、幼保連携型認定こども園に保育教諭として1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	幼稚園・保育園・認定こども園では、“このようなこどもに育てたい”と「保育理念」や「めざすこども像」を掲げて、日々保育を行っている。この保育理念に基づき、それぞれの発達段階に応じた保育内容がデザインされ保育が営まれる。この授業においては、各年齢のこどもたちの発達する姿を知り、幼稚園・保育園・認定こども園における教育(保育)課程の意味、教育(保育)課程に基づく年間、月、週計画の重要性について認識し、簡単な部分実習案を立案することを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				乳幼児期の子どもの発達の特徴について、説明できる。	
	◎	○				幼稚園・保育所・認定こども園の法的な位置づけの違い、利用対象者の違いについて説明できる。	
	◎	○				教育課程や保育課程についての概念、その編成や展開の仕方等について説明できる。	
	◎	○				指導計画およびその種類と作成の基本について、説明できる。	
○	◎					ゲームや手遊び、絵本、製作活動などの部分実習指導計画が作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	・『あたらしい幼児教育課程総論』(岸井勇雄・横山文樹 著/同文書院) ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説書 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ※このほか必要に応じて、教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・乳幼児期の特質				テキスト第1章を読んでおくこと。	
	2	教育課程の意義と方向(日本における幼児教育カリキュラムの基礎)				テキスト第2章を読んでおくこと。	
	3	幼稚園・保育所・認定こども園				テキスト第3章を読んでおくこと。	
	4	教育課程の基準(その変遷を中心に)				テキスト第4章を読んでおくこと。	
	5	幼児教育課程の基本				テキスト第5章を読んでおくこと。	
	6	光明幼稚園見学実習に向けた取り組み①				幼稚園児に向けた自己紹介を各自、簡単にメモにまとめておくこと。	
	7	光明幼稚園見学実習に向けた取り組み②				自己紹介に向けた準備を各自、整えておくこと。	
	8	確認テスト(第1回目)、光明幼稚園見学実習振り返りシート記入				第1回～7回までの授業の内容を復習しておくこと。	
	9	確認テスト(第1回目)フィードバック、見学実習振り返り発表				見学実習振り返りシートの記入をすべて済ませておくこと。	
	10	春の指導計画(4～6月)の実際				保育の場で歌う春の歌には、どのような歌があるか、メモにまとめておくこと。	
	11	夏の指導計画(7～9月)の実際				夏の子どもの遊びにはどのようなものがあるか、メモにまとめておくこと。	
	12	秋の指導計画(10～12月)の実際				保育の場で歌う秋の歌には、どのような歌があるか、メモにまとめておくこと。	
	13	冬の指導計画(1～3月)の実際				冬の子どもの遊びにはどのようなものがあるか、メモにまとめておくこと。	
	14	確認テスト(第2回目)、教育課程の評価				テキスト第9章を読んでおくこと。	
15	確認テスト(第2回目)フィードバック、小学校との連携				幼稚園教育要領解説 第1章第3節を読んでおくこと。		
評価方法	評価は、①定期試験 70% ②確認テスト 20% ③発表 10% にて行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	確認テスト	◎	○				20%
	発表			○	◎		10%
履修上の注意	この科目と同時に教育原理・教育方法論を同時に履修する。それぞれの科目について関連付けて理解するように努めること。また、教育実習Ⅰの実習要件科目でもある。10回以上の出席がない場合は、単位の修得ができない。						

科目名	教職概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育者として必要な共通の知識・技法を身につけていけるように実践的な練習を行う 日本における「教育」「教師」の歴史の流れや現代社会のこどもの姿の理解を深めた上で、 保育者として使命感や責任感・社会性や対人関係能力などを培い、保育指導力を高めていく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					保育者の役割と倫理について理解する	
		◎				保育者の制度的な位置づけを理解する	
			◎	○		保育者として、実習に行く際の正しい服装のマナーや訪問する際のマナーを身につける	
		○				保育者の協働について理解する	
		◎				保育者の専門性について考察する事が出来、また専門的成長についても理解する	
テキスト・教材 参考図書	新訂 教職入門～未来の教師に向けて～ 古橋和夫(編)/萌文書林 保育の学びスタートブック 久富陽子 編著/萌文書林						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション 教師について考える「わたしの目標」作成				「私の目標」ワークシート持参	
	2	「教師・保育者になる」という事 「わたしの目標」発表				スーツ登校	
	3	保育者としてのマナー(身だしなみ)				教科書の当該範囲を読んでおく	
	4	保育者としてのマナー(言葉について)				教科書の当該範囲を読んでおく	
	5	保育者に必要な「協働」と「合意」				教科書の当該範囲を読んでおく	
	6	チームとしての保育とは				教科書の当該範囲を読んでおく	
	7	絵本から学ぶ事				教科書の当該範囲を読んでおく	
	8	こどもの生活と援助 幼稚園 保育園 認定こども園の生活				教科書の当該範囲を読んでおく	
	9	こどもの生活と援助 遊びとは				教科書の当該範囲を読んでおく	
	10	こどもの生活と援助 行事について(調べ学習)				教科書の当該範囲を読んでおく	
	11	こどもの生活と援助 行事について(発表)				教科書の当該範囲を読んでおく	
	12	保育者としての人間性 「感性を磨く」				教科書の当該範囲を読んでおく	
	13	保育者としての人間性 「感謝の気持ちを持つ事」				教科書の当該範囲を読んでおく	
	14	保育者としての人間性 「感謝の気持ちを持つ事」				教科書の当該範囲を読んでおく	
	15	保育者としての人間性 「教師に必要な要素」				教科書の当該範囲を読んでおく	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施(2)授業中の発表回数・意欲・態度(3)出席を下記の観点から評価とする。 評価を行う成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	◎		○		70%
	意欲・態度・発表				◎		20%
	出席				○		10%
履修上の注意	教育実習 I の授業内容とリンクしています。						

科目名	造形表現(指導法)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡山 直之		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	美術家歴35年		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	造形技法の名称とその技法の内容を知り、その技法を使って作品を制作する。レポート作成、発表を通してその技法と指導法を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					造形技法の名称とその内容を説明することができる。	
	○	○		○		造形技法を使って作品を制作し、技法を身につける。	
	○	○		○		作品を発表することで、技法や制作についてより深い理解を得る。	
	○	○		○		レポートを作成することにより、技法の指導法をまとめ、身につける。	
テキスト・教材 参考図書	造形表現(指導法) 近畿大学九州短期大学発行						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	技法①フロッタージュ(模様を写しとる)を学ぶ。				最終作品のイメージをもっておく。	
	2	技法②スクラッチ(ひっかいて描く)を学ぶ。					
	3	技法③コラージュ(異素材を貼り合わせる)を学ぶ。					
	4	上記3つの技法をすべて使い、作品を制作し、発表する。				レポート作成	
	5	技法④デカルコマニー(左右対称の模様)を学ぶ。				最終作品のイメージをもっておく。	
	6	技法⑤ストリングデザイン(糸の模様)を学ぶ					
	7	技法⑥パチック(はじき絵)を学ぶ					
	8	上記3つの技法をすべて使い、作品を制作し、発表する。				レポート作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・宿題、レポートを各技法で作成、実施する。 ・作品を制作し、発表する。以上を下記の観点で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題、レポート	○	○		◎		50%
	作品発表	○	◎	○	◎		50%
履修上の注意	欠席が3回以上になる場合は単位を与えない。						

科目名	幼児と環境						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	阿部 良寛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	認定こども園施設長		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	幼児教育の基本、領域「環境」のねらいと内容を理解する。人的環境としての保育者に求められている社会的役割について認識し、子どもの育ちにとって大切にされているものを環境の視点から考察する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		保育における環境とは何かを説明することができる。	
		○		○		保育環境において自分たちで考えた設定保育を実践できる。	
	○	○		○		現代社会において求められる保育者像を理解し、説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	幼稚園型認定こども園における保育内容について			ミニ保育の準備(グループごと)		
	2	保育者の役割			ミニ保育の準備(グループごと)		
	3	認定こども園での体験学習(子どもたちとの出会い)			絵本・紙芝居、歌あそび等のリハーサル 保育にふさわしい服装・靴を用意すること。(ボロシャツ等)		
	4	認定こども園での体験学習(ミニ保育)			絵本・紙芝居、歌あそび等のリハーサル		
	5	認定こども園での体験学習(給食の場面)			絵本・紙芝居、歌あそび等のリハーサル		
	6	保育園での体験学習(子どもたちと草スキーをする)			保育園についての事前学習		
	7	現代社会が求める保育者像			体験学習振り返りシートの記入		
	8	自分のなりたい保育者とは?			振り返りシートに基いた省察		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	グループでの取り組みや発表を意欲点として評価する。 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	振り返りシート		○				20%
履修上の注意	実際の保育現場に伺うので、学生らしい身なりを整えること(染髪した状態では行くことができません。)。体調管理を適切に行い、健康な状態で伺うことができるように各自留意すること。						

科目名	健康(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼稚園教諭として幼稚園に3年間、幼保連携型認定こども園に1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	この授業においては、講義において保育内容「健康」領域とほかの領域との関連、乳幼児の運動発達のメカニズム、そして現代社会における子どもの育ちと健康教育に焦点をあて、なぜ保育内容の領域に「健康」が必要なのか、認識する。実技では、保育に将来携わる者として交流会実技を通して、自分自身が身体を楽しみながら動かすことを主眼とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				幼児教育において「健康」領域がなぜ必要であるか、食育のことも含めて説明できる。	
	◎	○				新生児の原始反射について、例を提示しながらいくつか説明できる。	
	○	◎				現代社会において、子どもの発達を脅かす問題について提示しながら論ずることができる。	
			◎	○			クラスメイトやチームメイトと協力しながら、スポーツを行うことができる。
テキスト・教材 参考図書	『健康 理論編』 鯨坂二夫 監修 米谷光弘 編著 保育出版社 2009年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、領域「健康」とほかの領域との関係			テキスト第4章を読んでおくこと。		
	2	DVD視聴、子どもの育ちと領域「健康」①			テキスト第2章を読んでおくこと。		
	3	子どもの育ちと領域「健康」②、子どもの「健康」をめぐる現状と課題			テキスト第5章を読んでおくこと。		
	4	安全教育・レポート作成(DVDを観た感想と「健康」の講義を振り返って)			テキスト第6章を読んでおくこと。		
	5	交流会出席			元気に出席できるよう、体調を万全に整えておくこと。		
	6	交流会出席			準備運動を丁寧に言い、交流会中にけがをすることのないようにしておく。		
	7	交流会出席			自分が参加する競技や順番について、しっかりと把握しておくこと。		
	8	交流会出席			ルールなどを事前に把握し、競技中はフェアプレーに徹すること。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	レポート40%、発表10%、交流会出席態度50%の割合で総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	◎				40%
	発表	○	◎				10%
	交流会出席態度			○	◎		50%
履修上の注意	実技においては、身体を楽しみながら動かすことはもちろんであるが、競技への参加態度も評価の対象とする。(相手チームやクラスメイト、教員のプレイを尊重すること。スポーツマンシップにそぐわないふるまいがあった時は、その時点で単位修得の要件を失う。)						

科目名	人間関係(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、5領域『人間関係』の内容及び意義について学ぶ。また、子どもが単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、他者理解を通して人の豊かな関わりを経験することの意義を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		宿泊での活動に、自ら意欲的に参加することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
	○	○		○		演習を通じて、他者理解を深めることができる。	
		○		○		人間関係の重要性に気づき、保育者の役割を自覚することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・アイスブレイキング					
	2	コミュニケーションの大切さを学ぶ					
	3	集団における自己の発達について学ぶ					
	4	野外活動を通じて協働の重要性を学ぶ					
	5	他者理解を深めるエクササイズ					
	6	ウォークラリーにて仲間意識を育てる					
	7	ウォークラリーにて仲間意識を育てる					
	8	振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	ディスカッションの状況		○				20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						



科目名	音楽表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に親しみ、音楽を使って人のためになることを体感する</li> <li>・合唱や音楽遊びを通して、保育者としての基礎力(表現力、チームワーク、向上心)を磨く</li> </ul>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		ボディパーカッションを通して、リズム感の育成	
		○		○		合唱や音楽遊びを通して、表現力、チームワーク、向上心を高める	
				○		人前で発表し、人に喜んでもらえることの楽しさを感じ、成功体験を積み重ねる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	合唱練習			自主練習・グループ練習をする		
	3	ドレミパイプ練習			自主練習・グループ練習をする		
	4	音楽遊び練習			自主練習・グループ練習をする		
	5	ランスルー			自主練習・グループ練習をする		
	6	ランスルー			自主練習・グループ練習をする		
	7	病院で発表					
	8	振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	入学して間もないため、まだ、学生同士の連帯感も少ないが、このスクーリングを通して、連帯感を高め、お互いを思いやる心や、一緒に頑張る心を育てていきたい。そのため、スクーリング中の言動は評価の対象としてとらえていきたいし、指導を加えていきたい。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		歌唱力	○				20%
		リズム感		○			20%
		取り組む姿勢			○		20%
		クラスメイトとのかかわり			○		20%
		向上心			○		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は単位を付与しない						

科目名	劇あそび(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 芳子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	劇団の講師のアドバイスや指導を基に保育者として必要な表現力、人前に立つ力、発想力などを身につけ、チームで創作劇を製作、出来上がった作品を保育園の園児に披露する。チームでお互いの意見を出し合いながら一つのものを作り上げていく事で協働の力も身につけていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○ ◎			創作劇の製作を基に自分の意見を人に伝える事や相手の話を聞く力をつける。	
		○ ○				プロの劇団の講師陣から表現の手法を学び、自分たちも実践する中で表現する楽しさを味わう。	
		○				自分たちが創作した劇を披露する中で、子どもたちの反応を学ぶ。	
			◎ ○			身近な日用品から何が出来るかを発想し、その道具を使い別のものを表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、アイスブレイク(レクリエーション)			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	2	劇団「道化」によるデモンストレーション「なにができるかな」			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	3	グループ分け 創作劇練習①			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	4	創作劇練習②			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	5	創作劇練習③			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	6	保育園児への創作劇「発表」①			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	7	教員発表向けの創作劇へのブラッシュアップ 練習			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	8	発表② まとめと振り返り			創作劇に必要な道具をもってくる。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席 (2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度 (3)出来上がった作品の完成度 (4)個人の表現力を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					◎	10%
	創作劇製作への取り組み				◎		30%
	作品の完成度		○	○	○		30%
	表現力			◎			30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合、近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	音楽表現 I						
科目名(英)	music performance I						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子/小賀直美/石丸真理子/木下美智子/長谷川裕子/藤田一美/古田淳子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	近畿大学九州短期大学特任講師(中村)		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかななくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読めるようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)	
		○				ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)	
			○			声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本、声楽教本</li> <li>・ドレミ楽譜出版社刊/こどもの楽典</li> <li>・チャイルド社発行/こどものうた100</li> <li>・講師作成の楽譜集(ファイル保管)</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・授業のガイダンス・音符と楽譜(楽典ブック)				なし	
	2	・ミツパチマーチ(ファイル)				ミツパチマーチの弾き歌いをしてるミツパチマーチの弾き歌いをしてる	
	3	・ちょうちょう				ちょうちょうを弾き歌いしてやる	
	4	・音符と楽譜(楽典ブック(15分))・かえるのうた				カエルの歌を弾き歌いしてやる	
	5	・5指内鍵盤での聴奏・音符と楽譜(楽典ブック)・むすんでひらいて				むすんでひらいてを弾き歌いしてやる	
	6	・5指内鍵盤での聴奏・音符と楽譜(楽典ブック)・ミツパチマーチ				ミツパチマーチ(ト長調)を弾いてやる	
	7	・5指内鍵盤での聴奏・音符と楽譜(楽典ブック)・BeeMarch				BeeMarchを練習してやる	
	8	・5指内鍵盤での聴奏・ちょうちょう(ト長調)				ちょうちょう(ト長調)を練習してやる	
	9	・5指内鍵盤での聴奏・ミツパチマーチ(ヘ長調)				ミツパチマーチを弾き歌いしてやるミツパチマーチを弾き歌いしてやる	
	10	・5指内鍵盤での聴奏・チューリップ				チューリップの弾き歌いをしてやる	
	11	・5指内鍵盤での聴奏・ぶんぶんぶん(ヘ長調)				ぶんぶんぶんの弾き歌いを練習してやる	
	12	・5指内鍵盤での聴奏・メリーさんの羊				めりーさんの羊の弾き歌いを練習してやる	
	13	・5指内鍵盤での聴奏・ぞうさん				ぞうさんの弾き歌いを練習してやる	
	14	・5指内鍵盤での聴奏・バイエル48番				バイエル48番を弾いてやる	
	15	・5指内鍵盤での聴奏・おべんとう、おかたづけ				おべんとう、おかたづけの弾き歌いを練習してやる	
	16	・山のおんがくか				山のおんがくかの弾き歌いを練習してやる	
	17	・みずあそび				みずあそびの弾き歌いを練習してやる	
	18	・はをみがきましよう				はをみがきましようの弾き歌いを練習してやる。	
	19	・たんじょうび				誕生日の弾き歌いを練習してやる	
	20	・たなばたさま				七夕様の弾き歌いを練習してやる	
	21	・せつけんさん				せつけんさんの弾き歌いを練習してやる	
	22	・おかえりのうた				おかえりのうたの弾き歌いを練習してやる	
	23	練習(90分)				すべての曲がごうかくしなければならぬ。	
24	前期試験						
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しなければ、合格基準を満たさないものとする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
小テスト		◎		○			20%
履修上の注意	実習前は、実習先から指定された曲を最優先とする。						

科目名	合奏 I						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	高松聡美/中村寛子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	演奏家歴34年現在も活動中(高松)		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育の現場において必要不可欠な音楽。幅広い知識とそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる子どもの曲や打楽器を中心に講師のオリジナル編曲を用いながらクラス単位で協力して取り組む。合奏を通して社会性を身に付ける。「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」などを育む。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
						○ 自分の資料、楽譜に記名、ファイルに収めきちんと管理することができる。	
						○ 使った楽器を元通りに片づけることができる。	
			○			整列する、静かにする等練習の態勢を素早く整えることができる。	
				○		できないところを繰り返して練習に取り組むことができる。	
		○	○			クラスメイトと協力し合奏としての作品を仕上げることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集他						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	合奏とは一講師の模範演奏・楽譜配布・資料楽譜楽器管理の徹底			資料・楽譜用ファイルの準備(様式不問)		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること 繰り返し練習をしておくこと		
	3	練習一個人練習をする パート練習をする			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	7	練習・レベルアップー総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	8	練習・レベルアップー総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか→提出物。(2)授業中の態度・意欲。(3)慰問演奏会で作品発表を実施する→実技試験。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品			○			30%
	授業態度				◎		40%
	資料・楽譜・楽器管理					○	30%
履修上の注意	クラスで声を掛け合って普段から練習する習慣をつけること。						

科目名	養護原理						
科目名(英)	Introduction to Child Care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	今日、児童と家庭を取り巻く生活環境の変化により、児童を家庭で養育することが困難なケースが増加している。『子どもの最善の利益』を追求するためには、家庭養護、施設養護を含めた社会的養護の基本的理解、社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族に関わる際の姿勢、援助が必要になってくる。3年次での児童福祉施設実習に向け、1年次の時点から児童福祉に興味を持ち、感じる力、考える力を身につけ、保育士としての役割、仕事内容を理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会的養護の基本理念を2つ挙げ、説明することができる。	
	○					家庭養護、施設養護について、説明することができる。	
		○		○		社会的養護を必要とする児童の気持ちを理解することができる。	
		○		○		児童福祉施設における保育士の役割を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・相澤 仁、林 浩康 『社会的養護 I』 中央法規出版 2019年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己紹介、科目ガイダンス(社会的養護とは何か)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	子育てについて(発達、社会状況)、子どもの権利			「こどもの日」にちなんだ新聞記事を読んでおく		
	3	「母の日」について			自分が生まれた時の様子を親に聞いてみる		
	4	現代社会に暮らす子どもと家庭①(少子化、核家族化、地域とのつながり)			少子化、家族の形態に関する記事を事前に読んでおくこと		
	5	現代社会に暮らす子どもと家庭②(教育、遊び、食の変化)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	子どもに起こる諸問題(社会的、学校、家庭内での問題)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	児童虐待①(現状、定義)			児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと		
	8	児童虐待②(児童虐待に関する法律、保育士の役割)			児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと		
	9	社会的養護の体系(家庭養護、施設養護)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	家庭養護(ファミリーホーム)、特別養子縁組について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	里親制度について①(里親制度のしくみ、里親の種類)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	里親制度について②(里親の気持ち、里子の気持ち)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	自立援助ホーム、施設の形態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	児童養護施設について①(施設における日常生活について)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	児童養護施設について②(保育士の役割について)、まとめ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 正試験を行うので、復習しておくこと			
評価方法	(1)出席率 (2)授業への参加状況(授業冒頭での復習確認、積極的な発言) (3)授業終了後、感想を書き、ノートを提出する。(4)正試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	ノート提出	◎	◎				10%
	授業態度				○		5%
出席率				○		5%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	教育実習指導 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	幼稚園に3年間、幼保連携型認定こども園に1年間勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	幼稚園教育実習の意義と目的を理解するとともに、保育実習を含めて3年間の実習計画や内容について知る。また、実習生としてふさわしい態度とは何かを考え主体的に実習に臨み、保育実践の基礎能力と態度を身につける。開講期間中に幼稚園の見学実習等、実際に保育現場での実習もあるためグループワークを通して、他者と協力しながら保育をデザインすることの面白さ、難しさについても学ぶ。本科目は、教育原理、教育課程総論で学んだ教育についての原則、カリキュラム論を土台にししながら、実際の教育実習実施に必要な知識や常識、技術を習得するための科目でもある。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○ ◎			幼稚園実習の意義と目的を理解し、保育を学ぶ学生らしい態度で見学実習等を行うことができる。	
	◎	○				3年間の全ての実習の流れを理解し、説明することができる。	
	◎	○				幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて、説明することができる。	
		○ ◎				実習に必要な書類の準備やアポイントメントの取り方について知り、実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版』石橋裕子・林 幸範編著 『幼稚園教育要領解説書』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館 その他、適宜教員作成の資料を用いる。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、保育ってどんな勉強をするの？			自分なりの自己紹介を考えておく。		
	2	教育実習とは			テキスト該当箇所(part1 学外実習について)を精読しておくこと。		
	3	教育実習指導 I の位置づけ、3年間の実習の流れ、資格と免許の違い			タームの1年生から3年生まで、それぞれがどのような1年間を過ごすのか見ておくこと。		
	4	教育実習の実際(幼稚園の1日と先生)、実習園の探し方、実習先希望調査			希望の実習先について下調べをしておくこと。(園児数、保育方針など)		
	5	実習に必要な書類について、実習生調査票下書き			中学入学、高校入学など成長の節目となる年が、西暦何年(日本の元号表記も併せて)だったか調べておくこと。		
	6	実習生調査票清書、幼稚園教育要領について			幼稚園教育要領解説 第1章、第2章を読んでおくこと。		
	7	光明幼稚園実習に向けての準備1			園児に向けてやりたい手遊び、歌遊びを調べたり、絵本の下読みなどをしておくこと。		
	8	光明幼稚園実習に向けての準備2			グループ内で園児に向けた発表の役割分担等、決めておくこと。		
	9	光明幼稚園実習振り返り、お礼状について(書くことも含めて)			二重構造の白封筒、縦書き罫線付白便箋を各自用意すること。		
	10	ひなた村実習について			ひなた村について、各自インターネット等で情報を調べ、保育方針を確認しておく。		
	11	記録の意義			テキスト関連箇所(part2 幼稚園・保育所等実習 P162～165)を精読しておく。		
	12	実習日誌について(日誌の構成要素)			テキスト関連箇所(part2 幼稚園・保育所等実習 P162～165)を精読しておく。		
	13	実習日誌について(記録の様式)			テキスト関連箇所(part2 幼稚園・保育所等実習 P154～161)を精読しておく。		
	14	事前実習オリエンテーションのアポイントについて			テキスト該当箇所(part1 実習準備 P18～21)を精読しておく。		
	15	実習前審査について、面接練習			各自実習に向う幼稚園の正式名称・園長先生のお名前を確認し、口頭で言えるようにしておく。		
評価方法	以下の表のとおり、評価は①ミニレポート10%、②発表20%、③グループワーク(保育のアイデア・グループ内の協力体制・保育のデモンストレーション)70%にて行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	ミニレポート	◎			○		10%
	発表	○	◎				20%
	グループワーク		○		◎		70%
履修上の注意	・出席が10回に満たない者は単位の修得が認められない。単位の修得要件については、学生便覧に記載してあるので各自、よく読んでおくこと。 ・この科目は後期科目・教育実習指導 I -②へと教育内容が継続していく。						

科目名	保育実技 I						
科目名(英)	childcare practice						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童養護施設にて保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育実習や現場で必要な教材の作成や絵本・手遊びなどの技術の習得を図る。また、こどもの年齢や発達、保育の場に応じた絵本や手遊びの選択・必要な知識の学習を行う						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○	○		保育実習で実践する事ができる絵本の読み聞かせを実施する事が出来る	
			○	○		保育現場で使える教材の作成(エプロンシアター等)が出来る	
	○		○	○		作成した教材を使ってこどもの前で実践する事が出来る	
			○			保育教材を作る為に必要な道具(はさみ・糊・ペン)の使い方を理解し、正しく使う事が出来る	
	○		○			以上児(3~5歳)のそれぞれの年齢にあった絵本を3冊以上選ぶ事が出来る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 手遊びとは			制作道具を揃えること		
	2	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 絵本について			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	3	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 鋏の使い方 壁面製作			制作道具を揃えておく 絵本・手遊びの準備(担当者)		
	4	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 名札作り①			絵本・手遊びの準備(担当者) 名札作りの材料準備		
	5	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 名札作り②			絵本・手遊びの準備(担当者) 名札作りの材料準備		
	6	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 名札作り③			絵本・手遊びの準備(担当者) 名札作りの材料準備		
	7	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 紙皿シアター① 導入・計画			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	8	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 紙皿シアター② 作成 仕上げ			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	9	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 紙皿シアター③ 発表 まとめ			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	10	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 教材研究 バブルアート			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	11	ルーティンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター① 導入 計画			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	12	ルーティンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター② 作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	13	ルーティンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター③ 作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	14	ルーティンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター④ 作成 まとめ			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	15	ルーティンワーク(手遊び・絵本) 教材研究(クレヨン ペン)まとめ			絵本・手遊びの準備(担当者)		
評価方法	(1)提出物(2)絵本読み・手遊び(3)意欲・態度・発表(4)出席 以上を下記の観点から評価する 成績評価基準はS(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物・作品	○	◎		○		60%
	絵本読み・手遊び	○		◎	○		20%
	意欲・態度・発表	○		◎	◎		10%
	出席				◎		10%
履修上の注意	教材製作の為に事前の準備が必要な授業が多い為、事前に指示を聞いて必要なものを準備してください						

科目名	レクリエーション I						
科目名(英)	Recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田 譲二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。子どもたちにとって遊びそのものが生活の一部であると同時に、遊びを通して協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる。	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる。	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる。	
		○		○		レクリエーション支援の手段として素材のアレンジ技術を身につけて実行することができる。	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーションの本質ならびに支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験① (アイスブレーキングの方法)					
	3	レクリエーションの素材の体験② (仲間づくりのためのゲーム)					
	4	子どものあそびとレクリエーション(理論と子どもの遊び実技)					
	5	レクリエーションの素材の体験③ (身近な物で作って遊ぶ)					
	6	レクリエーションの素材の体験④ (身近な物を使っての遊び)					
	7	集団内のコミュニケーションについて(理論)					
	8	レクリエーションの素材の体験⑤ (良好な集団づくりゲーム)					
	9	レクリエーションの素材の体験⑥ (意欲を引き出す遊び)					
	10	レクリエーションを対象者に合わせるアレンジ(理論)					
	11	レクリエーションの素材の体験⑦ (折り紙の世界)					
	12	レクリエーション・プログラムの作り方(理論)					
	13	グループワーク・トレーニング① (レクリエーション演習)					
	14	グループワーク・トレーニング② (レクリエーション演習)					
15	レクリエーション I のまとめ(理論)						
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)		◎		○		30%
	授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						



科目名	レクリエーション演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	この授業においては、身近な物を使って製作した品を近大科目『造形表現(指導法)スクーリング』にてお店屋さんごっこという形で子どもたちに提供することで、今後、実施する設定保育の基礎を学んでいく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		グループワークを通じて、仲間づくりと協調性の重要性を実感することが出来る	
	○					製作工程を通じて、保育技術の向上を実感できる	
	○					子どもたちの発達年齢に応じた遊びを選択し、実際に提供することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	・『健康 理論編』 鯉坂二夫 監修 米谷光弘 編著 保育出版社 2009年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス					
	2	実施計画書作成(お店のコンセプト作り)					
	3	実施計画書作成(お店のコンセプト作り)					
	4	試作品製作					
	5	試作品製作					
	6	製作					
	7	製作					
	8	製作					
	9	製作					
	10	製作					
	11	製作					
	12	お土産作り					
	13	お土産作り					
	14	シミュレーション					
	15	シミュレーション					
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
24							
評価方法	①授業態度 ②作品 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		○		◎		30%
	作品		◎		○		30%
	取り組み		○		◎		40%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位は付与しない。						

科目名	コミュニケーション論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	姫田 尚子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	教育者としても社会人としても、自分と相手の考えや気持ちをやり取りする力、つまりコミュニケーション力は重要である。コミュニケーションの基礎となる「心の仕組みと働き」や「人と人との心の交流」を交流分析理論より学び、自分を上手に表現すること、また、相手を理解することの習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					交流分析理論を学び、人の心の仕組みや働きを説明することができる。	
	○					交流分析理論を学び、人と人がどのような心の交流をするのかを説明できる。	
		○				交流分析理論を使って、自分自身の日常のコミュニケーションを分析できる。	
	○					より良いコミュニケーションを築いていくための4つのポイントを説明することができる。	
	○					率直に適切に自分を表現する方法を理解し、チャレンジできるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	●実務教育出版「TA TODAY」 ●PHP研究所「自分の気持ちをきちんと伝える技術」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	他己紹介ーコミュニケーションの基本 相手に興味を持つ					
	2	こころの栄養・ストローク～コミュニケーションに欠かせないもの					
	3	基本的立場～自分や相手に対して取る4つのこころの状態					
	4	基本的情動～感情の意味と、感情を感じることの大切さ					
	5	心理ゲーム～日常生活で行われる嫌なやり取りの、からくりと対処法					
	6	自分を上手に表現するために(1)～自分を伝えることとは					
	7	自分を上手に表現するために(2)～相手を理解することとは					
	8	まとめ～前期の復習				前期のまとめをするので、復習しておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1)毎回の授業の最後に「授業で理解したこと・感じたこと」を記入し提出 2)演習への取り組みの姿勢 3) 定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	演習	○	◎		◎		20%
	理解したこと・感じたこと	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	ペン字 I						
科目名(英)	Penmanship I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	書道講師36年		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者として、日常生活における硬筆書写の基礎力をつける</li> <li>・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写する事により集中力をつける</li> </ul>						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					正しい言葉使いで書写する事が出来る	
			○			書式に従って、美しい文字で書写する事が出来る	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写する事が出来る	
				○		集中力を持って取り組む事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字の基本－氏名・基本点画			水性ボールペンを用意しておくこと		
	2	ペン字の基本－基本点画・数字			氏名の練習をしておくこと		
	3	ペン字の基本－字形の整え方・字形24体			基本点画の練習をしておくこと		
	4	ペン字の基本－平仮名の字源・平仮名の練習			字形の復習をしておくこと		
	5	ペン字の基本－横書きを美しく書くコツ			平仮名の復習をしておくこと		
	6	実用書－封筒の表書き			横書きプリントを仕上げしておくこと		
	7	実用書－はがきの書式 書中見舞い			はがきを用意しておくこと		
	8	ペン字のまとめ－期末試験			今までのプリントをまとめておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1) 授業最終回で実施する期末試験を実技評価とする(持込可) (2) 小テストを意欲点として評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(授業中)	○		◎			80%
	小テスト				◎		20%
履修上の注意	黒の水性ボールペンを用意 はがきを用意 試験時は今までのプリントを持ち込み可とするのでまとめておくこと						